

本渡南地区ビジョン

本渡南地区振興計画

まちづくりマインド育み作戦 編

平成 21 年 3 月
本渡南地区振興会

本渡南地区ビジョン ー目次ー

1. 地区振興計画の策定に向けて	2
2. 地区の現状と課題	5
3. 地区ビジョンの趣旨	1 1
3－1. まちづくりの目標	1 1
3－2. 計画の期間	1 1
3－3. 活動の体系	1 2
3－4. 地区振興ステップ計画の考え方	1 2
4. まちづくりマインド育み作戦	1 4
4－1. 地元を知る	1 4
4－2. 地元を支える	1 5
4－3. 話し合う	1 7
4－4. 交流する	1 8
4－5. 計画の推進	2 0

1. 地区振興計画の策定に向けて

(1) 「地区振興計画書」とは

天草市では、平成 21 年度に全ての地区振興会において、地区のまちづくりの方針及び具体的な事業計画をとりまとめた「地区振興計画書」を策定することになりました。その趣旨等は、次の通りです。

●地区振興計画策定の背景

これからの地方分権の時代には、これまでもまして地区住民の発想による活動を大事にしていくことが必要であり、自己決定、自己責任、自己実現の意識を持って行動することが大切となってきます。

このような考え方にに基づき、それぞれの地区の実情を最も知っている住民自らが、それぞれの地区の特色を活かしながら、地区の将来がどうあるべきかを話し合って計画書としてまとめます。

そこでは、これまでの自治活動の見直しと、洗い直しを行うことが重要であり、加えて、地区の自然・文化・人材などの貴重な資源を有効に活用した、より充実した地区の将来を見据えた発展計画に取り組むことが大切になります。また、地域の課題などを探り解決していくことも必要になります。

なお、この「地区振興計画書」は、行政への陳情・要望書的なものではなく、地区住民が主体となった計画とし、地区住民が進むべき方向の指針として策定することが重要です。

●住民主体のまちづくり

本市では、自治会や地区各種団体が連携しながら、誰でも参加し、身近な地区の課題を話し合える場として、「地区振興会」を設置しています。この「地区振興会」を中心に「地区振興計画書」を策定することで、住民の生活に身近な地区の環境と自治活動を見つめるきっかけになるとともに、自ら考え行動する住民主体のまちづくりを実現する第一歩になることが期待されています。

●みんなで考えるまちづくり

「地区振興計画書」は、今後の地区の自治活動やまちづくり活動の方向を明らかにするものですから、それぞれの地区の現状や課題に応じた計画書をつくることが大切です。各地区にふさわしい計画づくりの方法を見出し、創意工夫して地区の特徴や魅力を活かした計画書作りを進めます。天草市の考え方としては、「地区振興会」には「コミュニティ主事」、天草市の地域振興課及び支所の総務振興課には「まちづくり協議会担当職員」を配置し、それぞれ計画策定を積極的に支援していきますが、あくまでも計画策定の中心は住民であり、地区振興会のメンバーを核にしながら住民が意見を出し合い、『みんなで考える計画づくり』を進めることが大切です。

(2) 「地区振興計画書」の策定手順

地区振興計画の策定手順は、全市的には次図の通り予定されています。

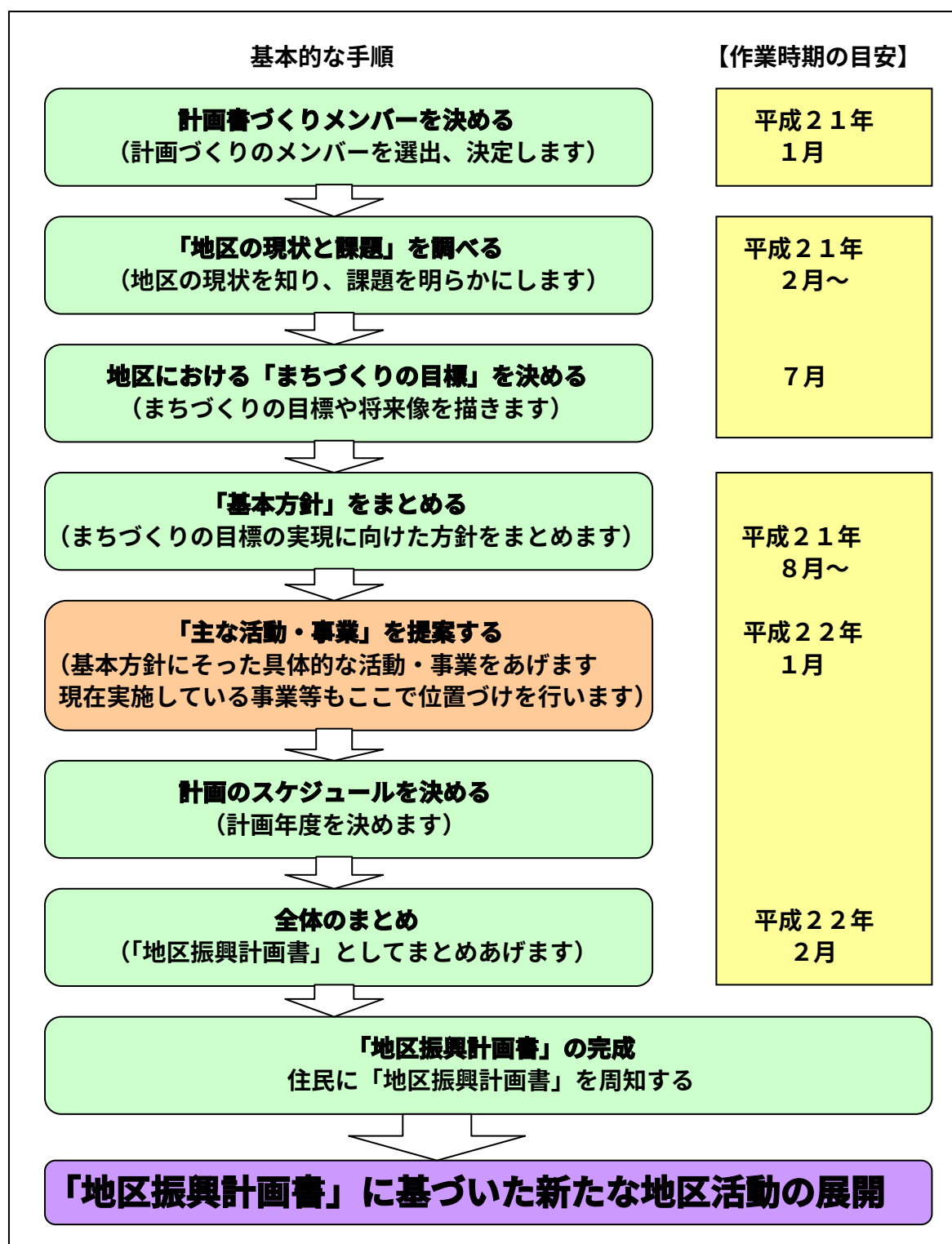


図1．地区振興計画書の策定手順

(3) 「本渡南地区ビジョン」の位置づけ

上記のことを踏まえ、これまで本渡南地区振興会においては、平成19年度に全世帯及び小学校高学年・中学生を対象とするアンケート調査を行い、地区の課題やまちづくり活動への住民の参加意向などを明らかにしました。

また、平成20年度には、地区住民のまちづくりへの関心を高める方策として、「年に一度の愛地区（郷）運動」のアイデアを募り、住民代表によるワークショップを通して、その具体的展開策を検討しました。

「本渡南地区ビジョン」は、平成21年度に策定する「本渡南地区振興計画」につながる計画の大枠を定めるもので、まちづくりの目標を示すとともに、まちづくりへの住民の関心を高めるための方策（まちづくりマインド育み作戦）を提示することを目的としています。

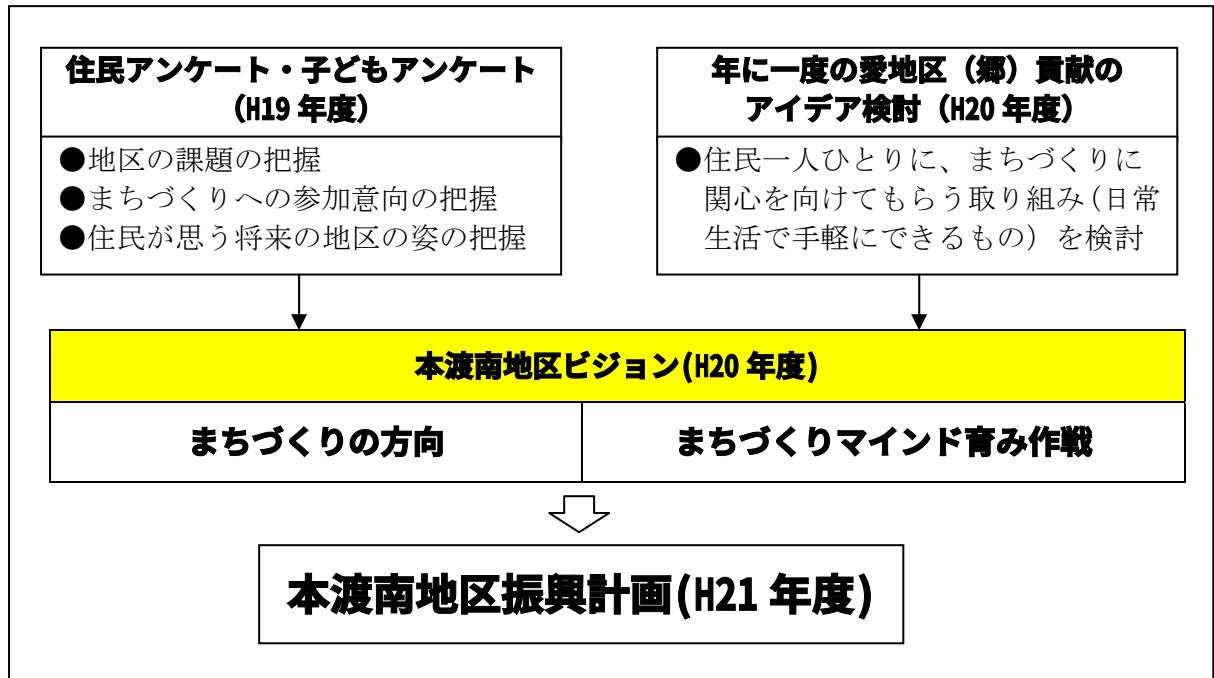


図2．地区ビジョンの位置づけ

２．地区の現状と課題

２－１．地区の現状

（１）位置・地勢

本渡南地区は、天草市の中央に位置し、面積は 14.21 ㎢であり、行政、商業機能、体育館や文化施設、医療施設等が集中しています。

地形的には、臨海部から山間地までを含み、西に十万山と染岳を望み、市街地の中央を町山口川が流れ有明海に注いでいる。町山口川の上流には農業地区があるが、耕作されていない農地や、住宅への転用が増えている。

（２）人口・世帯数

地区の人口は、9,604 人(平成 20 年 3 月 31 日現在)で、天草市全体のほぼ 1 割を占めている。高齢者率は 25.1%（市は 31.5%）に達しており、住民の 4 人に 1 人が高齢者という状況にあります。

表１．本渡南地区の人口、世帯数、人口、高齢者率

	世帯数（世帯）	人口（人）	高齢者数（人）	高齢者率（%）
本渡南地区	3, 9 3 4	9, 6 0 4	2, 4 1 2	2 5. 1
天 草 市	3 7, 9 4 4	9 5, 5 9 9	3 0, 1 1 5	3 1. 5

２－２．地区の課題

地区の課題としては、次のようなことが挙げられます。

（１）まちのにぎわいの復活

本渡南地区では少子高齢化が進展している一方、隣接の本渡北地区や亀場地区においては郊外型商業施設の立地、宅地開発があり、相対的に本渡南地区の商店街の賑わいは低下しています。最寄りの商店街が活力を失うとまちの魅力も低下し、高齢者なども日常の買い物に不自由することになりますので、まちの賑わいを取り戻すことが求められています。

（２）住民の地域の帰属意識の向上

本渡南地区は、天草市中でも人口、世帯数が多いところですが、転入者も多く、区への未加入率も高い（9.84%）ため、一つひとつの事業に地域住民の総意を反映させることが難しい面があります。

また、地区の行事や共同作業などに参加しない人が増えるなど、地域の人と人との繋がりが希薄になりつつあります。

福祉をはじめ、様々な課題を地域で解決することが求められる時代ですので、住民一人ひとりが地域で暮らす人を思い、支え合っていくようにすることが求められています。

（３）本渡南地区としての一体性を強化

本渡南地区は、人口規模の大きな区であることもあり、区単位の結束はあるものの本渡南校区としての一体性は弱い面がありました。本渡南地区振興会が発足したことで、様々な課題に対して話し合い、連携して取り組むことができるようになりましたが、今後、一つの地区としてのまとまりをさらに強めていくことが重要です。

（４）アンケート結果から明らかになった地区の課題など

平成１９年度に実施したアンケート調査結果では、次のような課題が明らかになりました。

①一般住民アンケート結果

全戸にアンケート票を配付し、4,760人から回答がありました。

●本渡南地区の住み心地

本渡南地区の住み心地としては、68.3%の人が「住みやすい」と回答しています。その理由としては、生活環境、自然環境の良さが挙げられています。商業業務施設をはじめ各種機能が集積していることに加え、海や川、山もあるという条件が評価されています。

一方、「住みにくい」とした人は9.3%で、「働く場がない」ことを理由に挙げている人が目立ちます。雇用の場の創出は、若い世代の流出防止、少子化の歯止め、地域の活力向上という意味で、大変重要な課題です。

「住みやすい」68.3% → 「生活環境が良いから」、「自然環境が良いから」

「住みにくい」9.3% → 「働く場がないから」

●地区での困りごと

地域での困りごとについては、50.4%の人が「困りごとない」としており、特に若い世代に多く見られます。「困りごとがある」としたのは42.2%で、こちらは、60代、70代の高齢者が多くなっています。

高齢者は、ゴミ出しや買い物といった日常生活のちょっとしたことで不便を感じているようです。また、災害時の安全についても心配している人が多くなっています。

その他では、防犯や交通安全、街灯の設置といった安全面の課題、マナーの悪い人、区に加入せず行事などにも参加しない人の増加が挙げられています。地域コミュニティが少しずつ変質していつている状況にあり、改めて、地域に積極的に参加し、自分たちの地域は自分たちでつくっていくことを再確認することが重要です。

「困りごとはない」50.4% → 世代が若いほど、困りごとはない

「困りごとがある」42.2% → 60代、70代が多い

↓
「不法投棄、道路へのポイ捨て」、「台風・地震など緊急時における避難の問題」

**70歳以上では、「高齢者のゴミ出しや買い物が不便」、
「台風・地震など緊急時における避難の問題」**

◆その他の困りごとの内容（自由記述）

- ・街灯がない、夜道が暗い
- ・防犯（車上あらし、不審者）
- ・交通問題（交通量、事故、信号機、駐車違反）
- ・マナー（犬のフン、自転車、ゴミ出し）
- ・暮らし（買い物、病院が閉鎖）
- ・獣害（イノシシ）
- ・区に参加しない住民、行事に参加しない住民が増えた
- ・遊び場、公園、交流の場の不足

●地区の強み、弱み

地区の強みとしては、伝統の祭りや行事があること、ご近所同士の助け合いがあることなど、人と人の繋がりが重視されている一方で、地域の行事に無関心な人が増えたことが弱みとして挙げられています。

やはり、地域コミュニティが変質していることに多くの人が問題意識を持っており、新たな地域の支え合いの仕組みを構築することが求められているといえます。

強み 「伝統の祭りや行事がある」、「川や森などの自然が豊か」、
「ご近所同士の助け合いがある、人情がこまやか」

弱み 「地域の行事に無関心な人が増えた」、「少子高齢化が進んでいる」

●「本渡南地区振興会」の認知度について

まちづくりの核となる「本渡南地区振興会」の認知度については、「知らない」とする人が 39.2%あったことから、まず、その知名度を上げていくことが重要です。特に若い世代において認知度が低い傾向があることから、そうした人たちに興味を持ってもらえる地域づくりのテーマを掲げ、活動に参加しやすい環境をつくることが課題です。

「知っている」 19.0%

「名前だけ聞いたことがある」 35.9%

「知らない」 39.2% ← 世代が若いほど「知らない」

●現在あるイベントへの参加意向

本渡南地区では、現在、様々な行事が行われていますが、そうした行事への参加意向としては、「参加したい」としたのは 6.3%にとどまっており、逆に「できれば参加したくない」、「絶対に参加したくない」とした人がかなり多く見られます。

一つひとつの行事は目的も明確で意義あるものですが、世話役が一部の人に偏っていたり、参加者も固定化されるなどの状況も見られることから、行事の内容の見直し、場合によっては行事そのものの改廃・統合を検討する必要があります。

なお、既存行事の中では、「市民・青少年一日一汗運動」については 26.0%の人が参加したいとしており、手軽にできる地域貢献であれば多くの住民が参加する可能性があり、こうした内容の取り組みを効果的に導入して、住民のまちづくり参加意欲を高めていくことが重要になります。

全イベント合計では、「参加したい」 6.3%
「内容によっては参加したい」 16.3%
「できれば参加したくない」 24.5%
「絶対参加したくない」 13.8%である。

行事別では、「市民・青少年一日一汗運動」は26.0%の人が参加したい
「親子ナイタードッジボール大会」は参加したくないとする人の割合が高い※
(※比較的高齢の回答者が多いので、このような結果になっています)

●地区の将来の姿

地区の将来の姿としては、高齢者が多いこともあり、「保健・医療・福祉が充実したまち」を希望する声が圧倒的に多くなっています。また、「災害・交通事故・公害の少ないまち」といった、安心・安全に暮らせるまちづくりの希望も多くなっています。

さらに、「商業振興に力を入れるまち」「子育て支援が充実したまち」の希望も出されており、若い世代が地元で働くことができ、子育ても安心してできる、という点も重要です。

「保健・医療・福祉が充実したまち」 36.0%
「災害・交通事故・公害などの少ないまち」 10.9%、
「商業振興に力を入れるまち」 8.6%
「子育て支援が充実したまち」 8.5%

②小中学生アンケート結果

小学校5年生以上の児童・生徒に対して、アンケート調査を実施し、小学生190人、中学生236人が回答しました。

●地区での困りごと

地区での困りごとがあるとしたのは21.2%で、その内容は、遊ぶ場所の不足、町の環境が悪化してきたというものでした。

「ない」 77.6%
「困っていることがある」 21.2%
↓
「近くに公園等の遊ぶところがない(少ない)」 34.1%
「放課後や土・日曜日に遊ぶところがない(少ない)」 27.4%
「道路や川など、まちが汚れてきた」 27.4%

●本渡南地区振興会を知っているか

本渡南地区振興会の認知度については、「知っている」は2.6%にとどまり、69.0%が「知らない」、27.5%が「名前だけ聞いたことがある」と回答しています。

子どもは、個々のイベントなどは認識しているものの、地域づくりを進める地域の仕組みについては、認識が少ないようです。子どものうちからまちづくりに関心をもってもらうことが重要であり、家庭でも地区でも、子どもたちがまちづくりに参画する機会を増や

すように努めることが重要です。アンケート結果では、小学生、女子児童、家でよくまちづくりの話をする家庭の児童は、「本渡南地区振興会」を知っているとする割合が高い傾向が見られることから、学校や家庭で地域のことを話し合う機会を設けるよう大人が心がけることが望まれます。

「知っている」 2.6% ⇒ 女子、小学生、家でよくまちづくりの話をする
「名前だけ聞いたことがある」 27.5%
「知らない」 69.0%

●日頃、まちづくりの話を家でしているか（聞いているか）

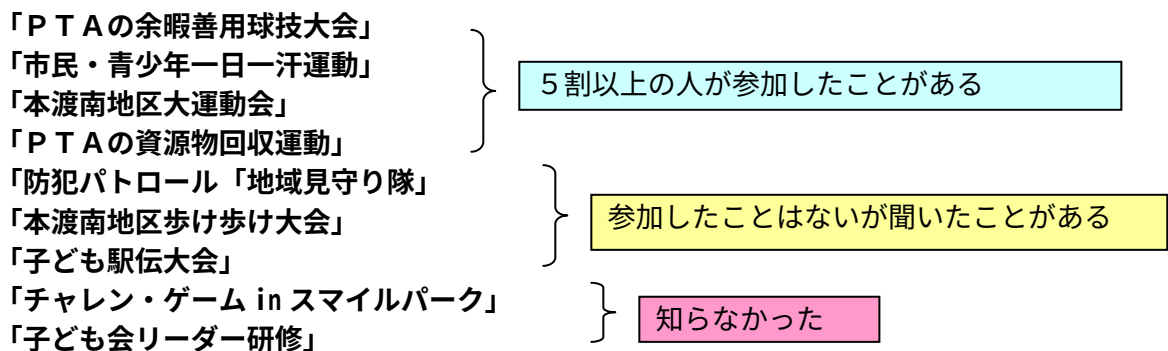
日頃、家庭でまちづくりの話を、「よくしている」のは 1.2%、「たまにしている」のは 24.0%です。この割合を、さらに高めていく必要があります。

「よく話をしている（親などが話しているのをよく聞く）」 1.2%
「たまに話をしている」 24.0%
「話をしたことがない」 37.8%
「わからない」 36.1%

●今ある行事を知っているか、参加したことはあるか

既存の行事の中には、選手とならなければ参加できないものもあり、内容によって、参加経験や認知度が大きく異なっています。

「市民・青少年一日一汗運動」は、5割以上の児童が参加したことがあるとしており、一般市民のアンケート結果と合わせて考えると、大人も子どもも一緒になって気軽にできるまちづくりへの参加プログラムを考え、実行することが重要と考えられます。



●地域の人と一緒にしたいこと

子どもたちが地域の人と一緒にしたいこととしては、スポーツや自然の中での遊び、音楽イベントの開催、郷土料理づくりなどが挙げられています。

「スポーツ大会をする」 50.6%
「山や川で遊ぶこと」 42.9%
「音楽のイベントをする」 21.4% ⇒ 中学生で多い意見
「郷土料理をつくる」 19.8%

●将来の本渡南地区がどのようなまちになって欲しいか （自由記述）

子どもたちが描く将来の地区の姿としては、自然や生活環境が美しく保たれ、人々の触れ合いがあり、イベントなどが行われる活気溢れるまちということになります。

- ・きれいなまち（ゴミ問題、環境意識、花いっぱい）
- ・安全、安心のまち
- ・自然がたくさんあるまち
- ・元気なまち
- ・ふれあいのあるまち（あいさつ、たすけあい）
- ・イベントのあるまち

●地区振興会で取り組んでもらいたいイベントや意見・要望など （自由記述）

地区振興会に取り組んでもらいたいこととしては、スポーツや音楽イベントの開催が挙げられており、また、地区振興会について知りたい、という意見も出されています。

子どもたちが地域づくりに興味を持てるように、地区振興会と学校や家庭の接点を増やしていくことが重要です。

- ・イベント（スポーツ、音楽）
- ・地区振興会について詳しく知りたい

③アンケートからみた地区の課題などの総括

以上を総括して、地区の将来象と心配事を整理すると、以下のようになります。

表2．アンケート結果から明らかになったまちの将来像・心配事

将来の地区の姿	心配事
①保健・医療・福祉が充実したまち	①高齢者の自立した生活
②災害・交通事故・公害などの少ないまち	②災害時などの安全安心
③商業振興に力を入れるまち	③生活環境の悪化
④子育て支援が充実したまち	④市民のマナーの低下
⑤歴史・文化・教育・スポーツが盛んなまち	⑤市民の地域への帰属意識の低下

3. 地区ビジョンの趣旨

平成 21 年度に策定する「本渡南地区振興計画」の大枠として、地区ビジョンを示します。この内容は、今後の検討を経て、詳細な「地区振興計画」へ発展していくものとします。

3-1. まちづくりの目標

本渡南地区のまちづくりの目標を

住民参加で築く安全・安心で活力あるまち

とします。

高齢化が進展し、一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が増加しています。また、家族の外出などにより昼間一人暮らしの状態になる高齢者もあります。こうした高齢者や障害のある人などが、安心して暮らせるように、地域の人同士が支え合い、見守りあっていくまちにします。

また、高齢者の多くは元気に生活しており、これまでの人生で培った知恵や技術は地域の宝でもあります。それを十分に生かすための場づくりを進め、定年退職後、UターンやIターンで天草市に住むことになった方にも呼びかけを行い、高齢者にも大いに地域づくりで活躍してもらいます。

さらに、若い世代が定住し、安心して子ども生み育てることができるよう雇用の場を生み出すことに対して、行政などと連携していきます。地区の商店街を盛り立てていくことも、高齢者の暮らし支援や観光振興といった長期的な視点で重要になります。子どもたちが希望する、スポーツイベントや音楽イベントなども企画し、そうした活動に子どもたちを参画させることで、次代を担う人材を育てていくことが重要です。

地区ビジョンに沿って、天草市の行政、文化、観光、交流の拠点地区としての本渡南地区を創っていきます。

3-2. 地区振興計画の期間

地区振興計画の期間は、平成 22 年度～26 年度までの 5 年間とし、この間に、着実に事業を実施し、その後も継続的にまちづくりを進めていきます。地区振興ビジョンは、振興計画の前段として、まちづくりの大きな方針、まちづくりマインドの醸成を狙った取り組みを提案するものです。大きな方針は将来にわたって継続し、まちづくりマインド醸成に関する取り組みは、必要に応じて継続していくものとします。なお、計画の進捗や成果について毎年の評価を行い、事業については、適宜必要な見直しを行います。

H21 年度 平成 22 年度・・・・・・・・・・26 年度 27 年度以降も発展・継続

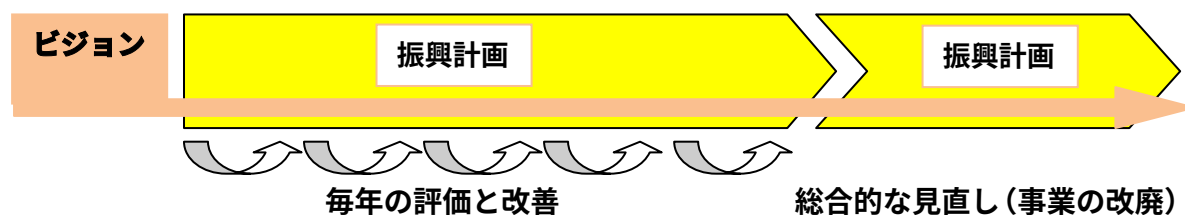
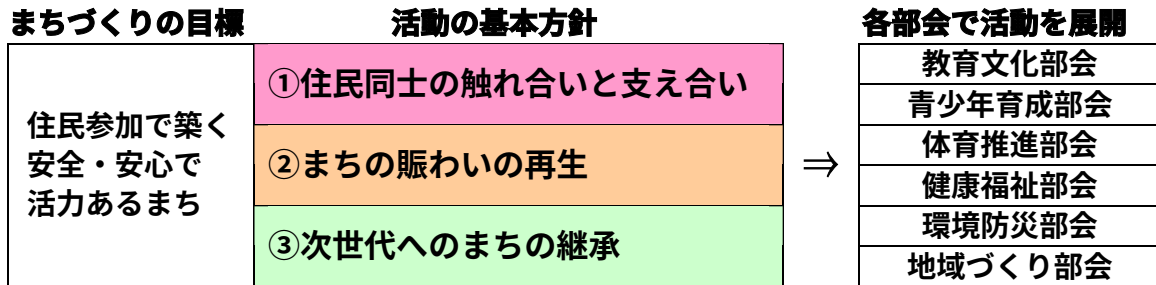


図 3. 計画の期間と見直し

3-3. 活動の体系

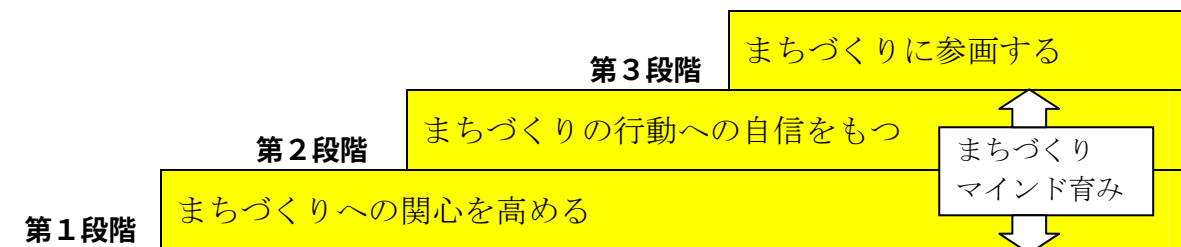
活動の体系を以下の通り定めます。

「住民参加で築く安全・安心で活力あるまち」を目指して、①住民同士の触れ合いと支え合い②まちの賑わいの再生③次世代へのまちの継承、を活動の基本方針として、各部会で活動を展開します。



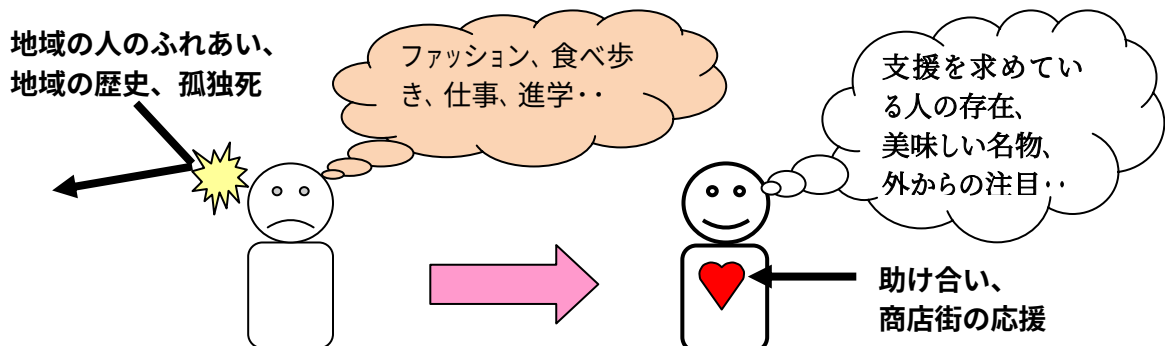
3-4. 地区振興ステップ計画の考え方

地区振興会の活動を盛り立て、発展させていくためには、地区住民が次のような段階を踏んでいくことが望まれます。



●第1段階 まず、まちづくり、まち自体に関心をもってもらいます。

人々の日常生活の中で、まちに関する事柄に関心がない状態であれば、そこに、いくらまちづくりの必要性を訴えても響きません。
何かのきっかけで、地域において何らかの支援を求めている人がいること、自分と同じ悩みをもつ人がいること、あるいは、美味しい名物、特産品やそれをつくる人、市外の人が天草の何に注目しているか、・・・そのようなことを知ることで地域への関心が生まれます。まちづくりは、そうした人を増やすことが先決です。



●第2段階 次に、まちづくりの行動をすることに自信をもってもらいます。

まちづくりの取り組み内容は様々に考えられますし、その取り組みに異論のある人はあまりいないでしょう。しかし、その取り組みは、通常なかなか盛り上がりません。

意義は認めるが、なかなか行動につながらないのは、行動することに自信を持っていないからではないでしょうか。

例えば、タバコを止めることで健康になる・・・その因果は自明です。では、なぜ止めないのか。ニコチン中毒という科学的な作用はあるでしょうが、そのことを除けば、おそらく、行動する自信をもっていないからです。禁煙という行動ができる、という自信が重要です。「できないかもしれない」と思うと、きっとそれは、いつまでたってもできないままです。

やれば、できる。結果は、分かっている。あとは、行動する自信です。

行動することへの自信は、自己効果力＝self efficacy と言います。

まちづくりも同じです。そこには、褒美も必要、応援も必要、環境も必要です。しかし、基本は、自分がその行動をする自信、です。

以上のように、まちづくりに関心をもったり、行動することへの自信をもつために、初期段階として「まちづくりマインド育み作戦」を展開します。

日常生活の中で手軽にできるとりくみを、多くの人の参加で実践するものです。

●第3段階 まちづくりへの参画

上記のような段階を経て、様々なまちづくり活動に住民が参画するようにしていきます。活動内容を充実させ、場合によっては項目を絞り込み、広報を十分に行い、住民の力を集中させます。

この際、活動の成果が見えやすいようにし、確認できるようにしていくことが重要です。

4. まちづくりマインド育み作戦

これから始める地区振興の初期段階として、まちづくりに関心をもってもらい、また、まちづくりの行動に自信をもてるように、以下の取り組みを進めます。

地区の人が、何か自分のできることで地域に貢献するところから、まちづくりを始めていきます。地区住民から募った「年に一度の愛地区（郷）貢献」のアイデアをもとに、住民参加ワークショップで検討し、有望な案として以下のようなものが選定されました。

これを基に、各区、家庭、老人会、婦人会、職場などで、積極的に行動します。もちろん、一人でいくつもの取り組みをしても構いません。

4-1. 地元を知る

基本の展開策は、以下のとおりです。

地域貢献アイデア	アイデアの展開方策
●地元の観光地を巡ってみよう。 ●天草の町を歩いて見て聞いて、楽しく動こう。 ●自分の足でゆっくりと街歩きをして、新しい・知らなかった地元を知りましょう。 ●地元のお年寄り話を聞く。 ●地元の昔からあるお祭りに参加してみましょう。	●マップを活用したまち歩きイベントを実施する。 ●広報誌などで、名所情報を紹介し、まち歩きを奨励する。 ●地区の小さなお祭りの開催日情報を小まめに提供することで、参加機会を得るようにする。

具体的な策として、以下のようなアイデアが住民ワークショップで出されました。

キャッチフレーズ：地元の観光地を巡ってみよう

何をするか	まず、地元の観光地を思い浮かべてください。ちょっとした桜の名所でも構いません。意外と足を運んだことがない、地元民でありながら、まだ一度も行ったことがない施設はありませんか？ そこに、行きましょう！！
どのようにするか	仕事の帰り、買い物のついで、ちょっとだけでも良いので、地元の観光地、観光施設に立ち寄って見ましょう。 地区のお年寄りや郷土史家等に話を聞いたり、地区振興会が作成したマップを購入して、地域を歩くのもよいでしょう。 お勧め、意外と知らない穴場観光地を広報誌で紹介していきます。
いつするか	いつでもできる
どこでするか	どこに行くかは、個人で思い思いに決めます。
住民にとって何が良いか	十万山等に行くことで、街全体が見える。とても、気持ちがよくなります。郷土を知り、自分の勉強になり、歩いていけばメタボ対策にもなります。
地区にとって何が良いか	住民の多くが、郷土の知識を得る事で郷土愛が生まれます。外からも多くの人々が来るようになれば、商業振興にもつながります。

キャッチフレーズ：親子で行くぞ、南探検隊

何をするか	親子で、地区の探検をします。
どのようにするか	子ども会の行事の一つに入れて、親子探検隊イベントを実施します。 地区振興会で作成したマップを持って、親子で思い思いの場所を巡ります。また、歩こう会のイベントのコースや、個々人の毎日の散歩コースも、あえて新しい順路を設定して、楽しみながらまちを探検します。 商店街でも、珍しいものの発見の探検ができます。珍しい商品、面白い看板や張り紙、名物の店主など。 今まであまり知らなかった場所・建物・旧道・祠等を発見したら、写真を撮り、作品を公民館に展示したりします。
いつするか	新年度になったら、早めにはじめましょう。
どこですか	どこでも探検の場所になります。
住民にとって何が良いか	地域の地理や歴史を知ることによって愛着がわく（郷土愛）し、意外と知らないことが多いので、自分の勉強にもなり、地域のことに関心を持つようになります。
地区にとって何が良いか	郷土の知識を得ることで、地区全体で、人々の郷土を愛する気持ちが生まれます。すばらしい所があったと伝えれば、他の人も行ってみたいかもしれないし、気に入ったお店でも見つかったら、買物することもあるかもしれません。そうすれば、地元の産業振興につながり、観光客にも好感をもたれるまちになります。

4－2 地元を支える

基本の展開策は、以下のとおりです。

地域貢献アイデア	アイデアの展開方策
●地区外への贈答品を天草産品にしよう ●地元の商店で買い物をしよう ●観光バスに手を振ろう（歓迎の意を表わすために）	●地元の産品を組み合わせたギフト商品を開発する。農産品や海産物、土産物（菓子や乾物など）も合わせて、生産者も交えて企画する。 ●観光バスに手を振ろう月間を決めて、市長以下、みんなで手を振る。

具体的な策として、以下のようなアイデアが住民ワークショップで出されました。

キャッチフレーズ：ようこそ天草またきてバイバイ

何をするか	観光バスをみかけたら、手を振ります
どのようにするか	観光バスを見かけたら、どこでも区民全員で、笑顔で手を手を振るようにします。観光ルートやポイント等を調べ、どこに観光バスが多く来るか、いつ頃が多いかを調べます。 公民館を中心に、子ども会、老人会、区長会等で話しをし、この取り組みを広報誌で紹介してもらったり、ケーブルテレビや他のテレビ局に取材してレポートしてもらいます。
いつするか	保育所・幼稚園等は園外活動中に出合ったら、今からすぐにでもできます。住民も、バスを見かけたら、手を振るようにします。 平成 22 年度に「天草キリシタン館」がオープンするので、その頃には、地区をあげての運動として定着するようにします。
どこですか	まち中の観光ポイントであればどこでもできます。
住民にとって何が良いか	外からのお客さんに対して笑顔で手を振ることで、精神的に和み、穏やかな気分になれるでしょう。そうすると、地区のみんなが、もっと挨拶が出来るようになります。 こうして、外から来る観光客に関心が生まれると、例えば、見かけた車のナンバーなどから、どのような観光客が来ているのかに気づくようになり、そうした住民の変化があれば、観光振興に協力する人も増えてきます。新しい観光振興アイデアも生まれてきます。
地区にとって何が良いか	「天草の人たちは笑顔で手を振ってくれる」ということで好感がもたれ、もう一度、天草に来たい気持ちになってもらうことができます。 外からの目を意識するようになれば、住民が、地域を綺麗にして、観光客を呼びたいという気持ちを持つようになり、地域の活性化につながります。

キャッチフレーズ：地元もんば買う b u y

何をするか	でこぼん、からすみ、スルメ爛瓶、うにせんべい、焼酎天草、黒まんなどなど、努めて地元のものを買って・贈るようにします。
どのようにするか	中元や歳暮には、地元のものを使うようにします。また、市外で暮らす家族にも、地元産品を送るようにします。日本一重たいお土産「赤まき」、日本一軽いお土産「うにせんべい」など、地元には面白い・喜ばれる逸品があります。そうしたものを市民が知るために、特産品を集めたカタログをつくります。 地元産品を購入したらもらえるポイント制を導入して、たまったポイントで天草市のゴミ袋と交換できるようにします。こうした取り組みや、逸品情報を広報紙「南風」に載せて紹介します。
いつするか	贈答品を必要とする時。それ以外でも、毎日の暮らしの中で、なるべく地元の特産品・産物を買うようにします。
どこですか	地元の商店街、農家など。
住民にとって何が良いか	地元の人が、意外と知らない逸品を見直すことができます。 ポイント制にすれば、個人にメリットがあります。
地区にとって何が良いか	天草の逸品の販売が促進され、地元の商店や産業が活性化します。

4-3. 話し合う

地域貢献アイデア	アイデアの展開方策
●地域の大人や高齢の人が生き生き暮らせる社会についての話し合い。 ●地域の子ども達安心して暮らせる社会についての話し合い。 ●商店街の復興やガソリンスタンドの減少についての話し合い。	●まず、上記のような「地元を知る」「地元が支える生産地・観光地」「交流」について、各区で、「やってみよう」という前提で話し合う。 ●暮らしの安全安心を高めるための取り組みについて話し合い、行動する。

具体的な策として、以下のようなアイデアが住民ワークショップで出されました。

キャッチフレーズ：明るい町に！

何をするか	児童・生徒の登下校の見守りをします。また、声かけ（挨拶）をします。
どのようにするか	子どもたちには、努めて声かけをします。また、子どもたちも、挨拶やお辞儀をするマナーを身につけ、大人も子どもも実践します。 子ども 110 番の見直しをするとともに、住民みんなが、不審者を見かけたら、警察に通報したり、他の人に知らせるようにします。「おかしいな」と思ったら、すぐに連絡することを申し合わせ、早めに予防的に行動できるようにします。必要に応じてパトロールを実施します。 挨拶や声かけを徹底するため、地区の集会などでは、「こんばんは」「おはようございます」「お疲れ様でした」など、会の始まりと終わりの際に、全員で声をそろえて挨拶するようにします。こうした、凡事を徹底していきます。
いつするか	各種団体ではすでに実施中(婦人会、民生児童委員、交通指導員など)ですが、地域住民においては、広報や地区の集会を通して実践を呼びかけ、すぐに始めます。
どこですか	いつでもどこでもできます。家庭でも実践します。
住民にとって何が良いか	地域住民との触れ合いができるようになり、暮らしの安心が高まります。
地区にとって何が良いか	安心して暮らせる町(地域) になります。

キャッチフレーズ：ホット安心子供 110 番

何をするか	子供達が通学時、何か困ったとき「子供 110 番の家」に立ち寄れるようにします。
どのようにするか	現在設置されている「子供 110 番」の見直しを行います。現在の設置数は不足しており、実際に機能するかしらないか分からないような不安な面もありますから、改めて「子供 110 番」の家の設置を南公民館の回覧や小学校からのお知らせ、児童センターだよりを使って募集する。
いつするか	随時始めることができます。
どこでするか	通学路の沿線で行います。
住民にとって何が良いか	登下校時の犯罪防止につながります。また、地域の人々の防犯意識が高まります。
地区にとって何が良いか	通学路（特に下校時）が長く、時間がかかるため（特に山口地区）、暗い時間帯に家に帰ることもあるので、いつでも安心して立ち寄れる「子供 110 番の家」があると安心できます。子どもだけでなく、地区の人も安心感が高まります。

4－4．交流する

基本の展開策は、以下のとおりです。

地域貢献アイデア	アイデアの展開方策
●地域のお年寄りが保育園などを訪ねて交流会をする。昔話を語って聞かせる、昔の歌を教える、絵本の読み聞かせをする等。また、園児は歌やダンスを見てもらったり、異年齢交流会があってもいいと思います。 ●米や野菜等の生産者の皆様と消費者の皆様との交流会をしてみませんか。 ●桜まつり前後日に区全体の花見をしよう。	●敬老会、いきいきふれあいサロンなどで子どもと高齢者の交流を実施する。 ●お年寄りから昔の話を聞くだけの目的の「話を聞く会」を開催する。 ●いきいきふれあいサロンなどで、花見を行い、保育園の花見も、そのとき一緒に行く。

具体的な策として、以下のようなアイデアが住民ワークショップで出されました。

キャッチフレーズ：天草をきれいな宝島にしませんか

何をするか	各地区で年に2～3回清掃活動を行います。また、常時、自宅の周辺（ゴミの多い所など）のミニ清掃をします。
どのようにするか	夏季～秋季（夏季休暇中心に、子どもも参加して）に、清掃を実施します。また、各戸の玄関先道路を清掃したり、花を植えたりして、日々の生活の中で美化に努めます。 広報（市の広報、ケーブルテレビ等）で周知徹底を図り、多くの人に参加してもらい、また、きれいになったまちを紹介してもらいます。一方で、ゴミの不法投棄防止や、住民も含めたポイ捨て禁止を徹底するために、広報を使って意識啓発を行います。
いつするか	地域住民全員（動ける人は全て）夏から秋にかけての祭りの後等に実施します。「一日一汗運動」を活用することもできます。
どこですか	自宅の周辺と各地域で問題のある場所の点検、洗い出しを行い、重点的に実施します。
住民にとって何が良いか	美しいまちで暮らすことができます。
地区にとって何が良いか	住民意識の観光美化意識が向上し、天草が文字どおりの「宝島」になることにつながります。まちを美しく保てば、不法投棄も減少します。

キャッチフレーズ：祭りだ、祭りだ！みんなで盛り上げよう

何をするか	地区の祭りや行列に進んで参加します。また、祭りの準備を手伝います。
どのようにするか	「注連縄づくり」「祭壇づくり」、十五夜の「綱引き用の大縄づくり」等に参加します。 祭礼については区長やお宮の総代を中心に区民が参加して行い、十五夜については区長や子ども会の保護者や子どもが協力して行います。指導は、地区の老人の方々にお願いします。注連縄も綱引き用の縄も、稲藁が必要になるので、農家の協力をお願いします。 広報紙を利用して、どのような行事や準備作業があるのかを周知し、祭や行事の内容をケーブルテレビ等で放映してもらいます。
いつするか	祭礼や十五夜などの行事ごとに行います
どこですか	場所は、地区の公園や広場などです。
住民にとって何が良いか	伝統ある祭り・行事は、地域の人が力を合わせないと実行できないことを理解することになります。地域の支え合いの大切さを学ぶことができます。 地元の歴史を知ることが出来るほか、高齢者と子供・その保護者と一緒に仕事をするので、年齢を超えた交流ができ、日常の生活での声かけや挨拶が出来るようになります。
地区にとって何が良いか	祭りなどが盛んになれば、地区外の人を呼び込むことができるので、商店の活性化につながります。

4－5．計画の推進

計画を推進するために、以下のような重点的取り組みを行います。

（１）誘います

本渡南地区では、大運動会や各種のイベントが行われています。また、子どもや高齢者の見守りなどのボランティア活動も行われています。

まず、こうした活動の存在を多くの住民に知ってもらうことが大事です。その上で、「参加したいが、きっかけがない、知り合いがいらないので輪に入っていけない」というような状態にある人に気軽に参加してもらえよう、直接声をかけ誘うようにします。

ややもすると活動が一部の役員や限られた住民に固定化しがちですが、その状態を打破するもの、そうした中核となっている人材の行動によります。

活動の中で発生する仕事をきちんと分割し、担ってもらう役割を明確にした上で、加勢してくれる人を誘ってきます。

（２）女性パワーを発揮します

「まちづくりマインド育み作戦」の中で、「地元もんば買う b u y」作戦があります。家庭用にお茶菓子を買ったり、贈答品を選んだりするのは、やはり女性が主役であると言えます。

婦人会やPTAなど、様々な機会をとらえて「お薦めの店」「お薦めの一品」情報を交換し、実践と口コミで、活動を盛り上げてもらいます。

現在でも、務めて地元産の農産品や海産物を購入している人は少なくありません。そうした、ちょっとしたこだわりのある人を増やしていくことが、まちづくりの基本です。

安心・安全の品、カワイイ商品、とっておきの店など、務めて話題にしてもらい、「地元もんば買う b u y」作戦を、先導的な取り組みとして盛り上げます。

（３）地域振興会役員が率先して行動します

まちづくりは、務めて行動する人が目立った数存在することで勢いを増していきます。その数は、１００人ではなく、１０人～２０人で十分でしょう。

具体的には、「地元もんば買うバイ！」と、事あるごとに発言することで十分です。そのようなことから率先して実行します。